

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果について I 小学校国語

■ 学力調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、
- ① 市教育委員会は、児童・生徒の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教育行政施策に生かす。
 - ② 各学校は、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る。
 - ③ 市教育委員会は、市民に対し、市立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

■ 調査日

令和7年4月17日（木）※ 中学校理科は14日～17日のうち1日

■ 調査対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

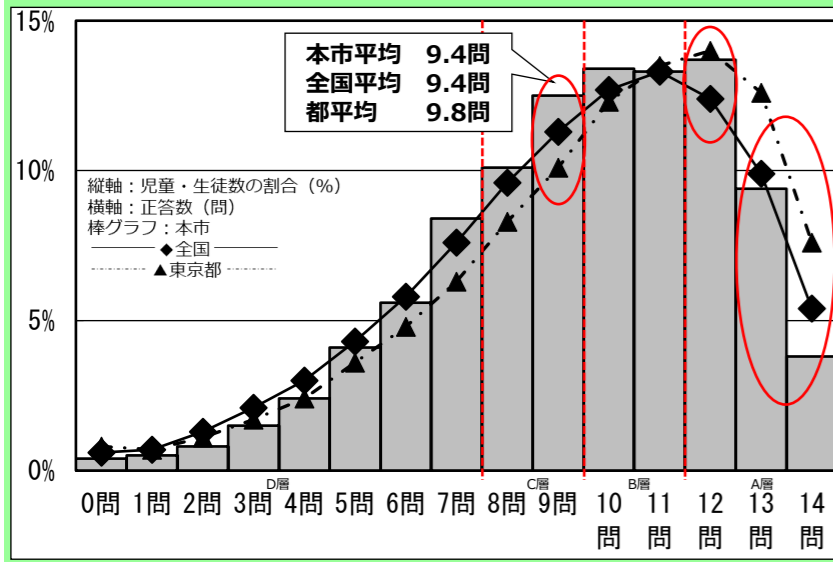
■ 調査事項

国語、算数・数学、理科、質問紙調査

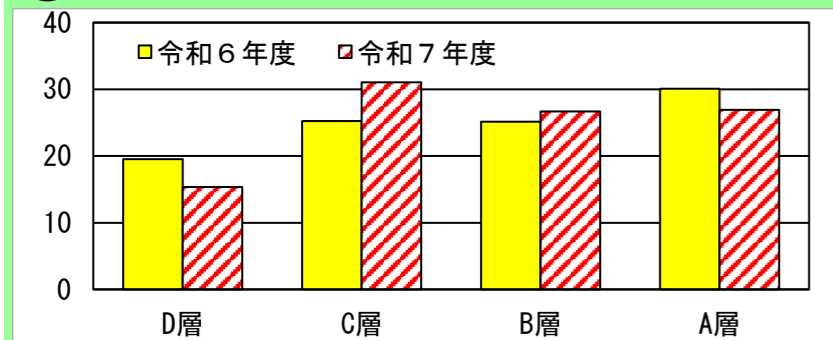
① 平均正答率 (%)

| | 本市 | 全国 | 東京都 |
|-----------|------|------|------|
| 平均正答率 (%) | 67.0 | 66.8 | 70.0 |

② 正答数分布グラフ



③ 四分位の正答数分布 (%)



※ 四分位の正答数分布……正答数の多い順に整列し、25%刻みで4つの層分けを行ったものであり、上位からA層、B層、C層、D層と呼称したもの

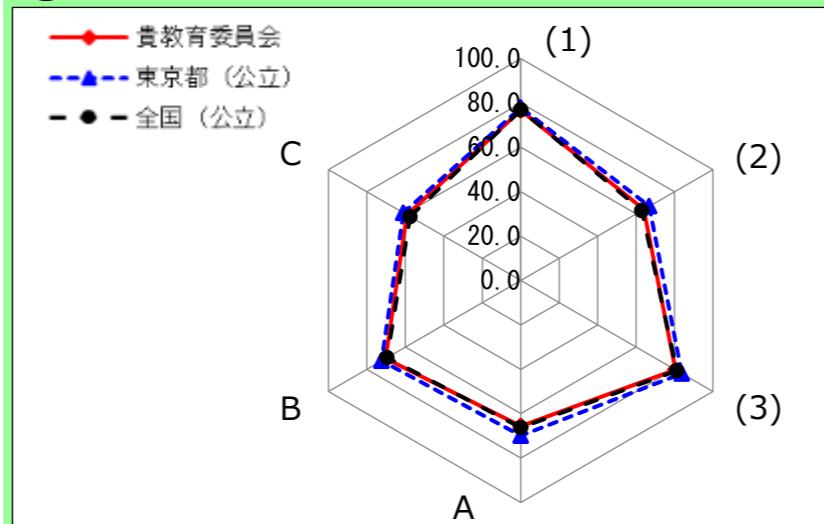
■ 現状・課題

- ① 平均正答率は、67.0%であり、全国より0.2ポイント高く、東京都より3.0ポイント低い。
- ② 正答数分布グラフは、12問を頂点とした右寄りの山型を描いており、四分位のA層が属する14問、13問の児童数の割合が全国より低く、A層の属する12問、C層の属する7問の児童数の割合が全国より高い。
- ③ 四分位の正答数分布は、令和6年度に比べてA、D層が減少し、B、C層が増加した。
- ④ 評価の観点の平均正答率は、知識・技能は全国と同等の74.5%であり、東京都より2.1ポイント低い。思考・判断・表現は64.5%であり、全国より0.7ポイント高く、東京都より2.6ポイント低い。
- ⑤ 学習指導要領の内容の平均正答率は、知識及び技能の「(2)情報の扱い方に関する事項」が64.1%、思考力・判断力・表現力等の「B 書くこと」が70.3%、「C 読むこと」が59.2%で全国を上回り、東京都との差が2.9ポイント以下となった。
- ⑥ 記述式の問題に無解答率が高く、質問紙調査において「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」の回答割合が全国や東京都より低いことから、途中で解答を書くことをあきらめたものがあつたと考えられる。

④ 評価の観点の平均正答率 (%)

| 評価の観点 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|----------|------|------|------|
| 知識・技能 | 74.5 | 74.5 | 76.6 |
| 思考・判断・表現 | 64.5 | 63.8 | 67.1 |

⑤ 学習指導要領の内容の平均正答率 (%)



| 学習指導要領の内容 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|---------------------|------|------|------|
| 知・技 | | | |
| (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 76.7 | 76.9 | 77.9 |
| (2) 情報の扱い方に関する事項 | 64.1 | 63.1 | 66.9 |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 80.5 | 81.2 | 83.8 |
| 思・判・表 | | | |
| A 話すこと・聞くこと | 65.6 | 66.3 | 69.9 |
| B 書くこと | 70.3 | 69.5 | 72.4 |
| C 読むこと | 59.2 | 57.5 | 61.0 |

⑥ 問題別集計結果

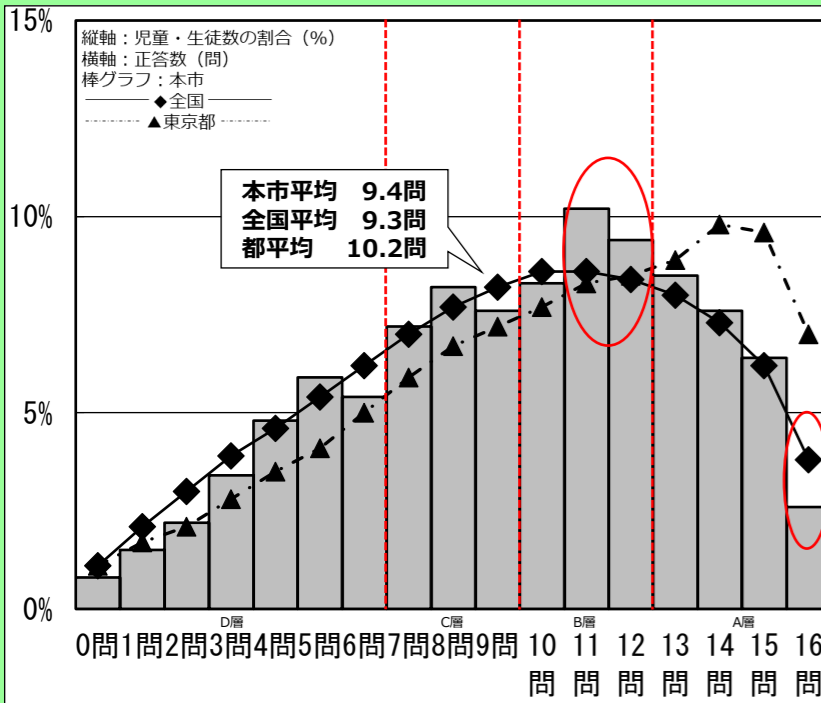
| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の内容 | 正答率 (%) | | | 無解答率 (%) | | |
|-------|---|-----------|---------|------|------|----------|------|------|
| | | | 本市 | 全国 | 東京都 | 本市 | 全国 | 東京都 |
| 1ー | 【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する | 思・判・表 | 52.1 | 53.3 | 58.0 | 0.7 | 0.5 | 0.8 |
| 1ニ | 【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する | 知・技 | 64.1 | 63.1 | 66.9 | 0.5 | 0.5 | 0.8 |
| 1三(1) | 【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する | 思・判・表 | 69.9 | 71.8 | 75.3 | 0.4 | 0.6 | 0.9 |
| 1三(2) | 【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する | 思・判・表 | 74.9 | 73.7 | 76.3 | 0.5 | 0.6 | 0.9 |
| 2ー | 【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する | 思・判・表 | 64.5 | 65.5 | 69.7 | 0.9 | 0.8 | 1.2 |
| 2ニ | 山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する | 思・判・表 | 86.6 | 81.8 | 85.5 | 0.8 | 0.8 | 1.2 |
| 2三 | 【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く | 思・判・表 | 59.8 | 61.3 | 62.1 | 6.4 | 5.0 | 5.9 |
| 2四ア | 【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す（このみ） | 知・技 | 83.7 | 81.6 | 83.7 | 7.1 | 7.2 | 7.8 |
| 2四イ | 【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あついで） | 知・技 | 69.8 | 72.1 | 72.1 | 5.6 | 4.3 | 5.4 |
| 3ー | 【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する | 知・技 | 80.5 | 81.2 | 83.8 | 1.3 | 1.3 | 2.0 |
| 3ニ(1) | 【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く | 思・判・表 | 83.6 | 81.6 | 84.2 | 2.7 | 2.9 | 3.7 |
| 3ニ(2) | 【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する | 思・判・表 | 55.8 | 51.3 | 56.2 | 2.7 | 2.4 | 3.4 |
| 3三(1) | 【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄アに当てはまる内容として適切なものを選択する | 思・判・表 | 43.6 | 40.8 | 47.0 | 4.5 | 3.4 | 4.7 |
| 3三(2) | 【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く | 知・技 | 54.0 | 56.3 | 56.5 | 19.6 | 16.2 | 19.9 |

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果について I 小学校算数

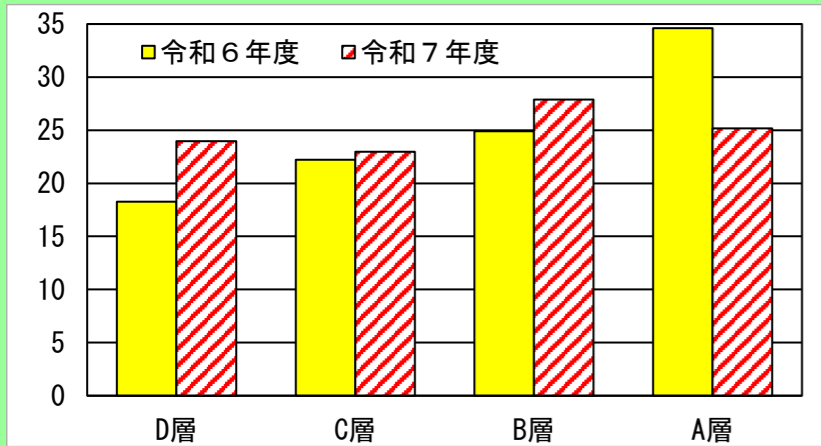
① 平均正答率 (%)

| 本市 | 全国 | 東京都 |
|------|------|------|
| 59.0 | 58.0 | 64.0 |

② 正答数分布グラフ



③ 四分位の正答数分布 (%)



※ 四分位の正答数分布……正答数の多い順に整理し、25%刻みで4つの層分けを行ったものであり、上位からA層、B層、C層、D層と呼称したものの

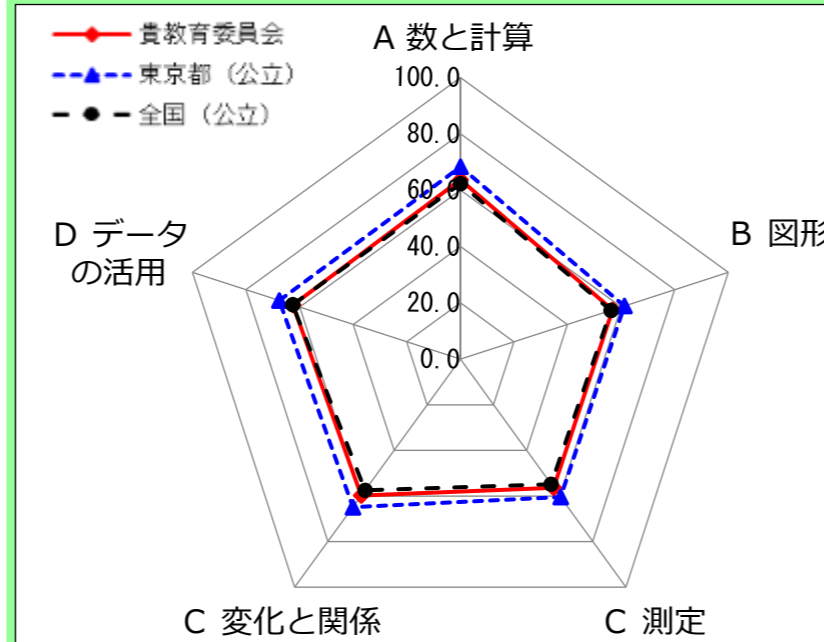
■ 現状・課題

- ① 平均正答率は、59.0%であり、全国より1.0ポイント高く、東京都より5.0ポイント低い。
- ② 正答数分布グラフは、11問を頂点とした右寄りの山型を描いており、四分位のA層が属する16問の児童数の割合が全国より低く、B層の属する12問、11問の児童数の割合が全国より高い。
- ③ 四分位の正答数分布は、令和6年度に比べてA層が減少し、B、C、D層が増加した。
- ④ 評価の観点の平均正答率は、知識・技能は67.2%であり、全国より1.7ポイント高く、東京都より3.7ポイント低い。思考・判断・表現は48.6%であり、全国より0.3ポイント高く、東京都より5.8ポイント低い。
- ⑤ 学習指導要領の領域の平均正答率は、「A 数と計算」が63.7%、「B 図形」が56.8%、「C 測定」が56.4%で全国を上回り、東京都との差が5.1ポイント以下となった。
- ⑥ 1(2)、2(4)、3(2)、4(2)の記述式の問題においては、全国や東京都と比べて正答率が低く、質問紙調査において「解答時間は十分だった」と答えていることから、正答の条件を満たさない誤答が多かったと考えられる。

④ 評価の観点の平均正答率 (%)

| 評価の観点 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|----------|------|------|------|
| 知識・技能 | 67.2 | 65.5 | 70.9 |
| 思考・判断・表現 | 48.6 | 48.3 | 54.4 |

⑤ 学習指導要領の領域の平均正答率 (%)



| 学習指導要領の領域 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|-----------|------|------|------|
| A 数と計算 | 63.7 | 62.3 | 68.3 |
| B 図形 | 56.8 | 56.2 | 61.2 |
| C 測定 | 56.4 | 54.8 | 60.5 |
| C 変化と関係 | 59.8 | 57.5 | 64.9 |
| D データの活用 | 62.5 | 62.6 | 67.6 |

⑥ 問題別集計結果

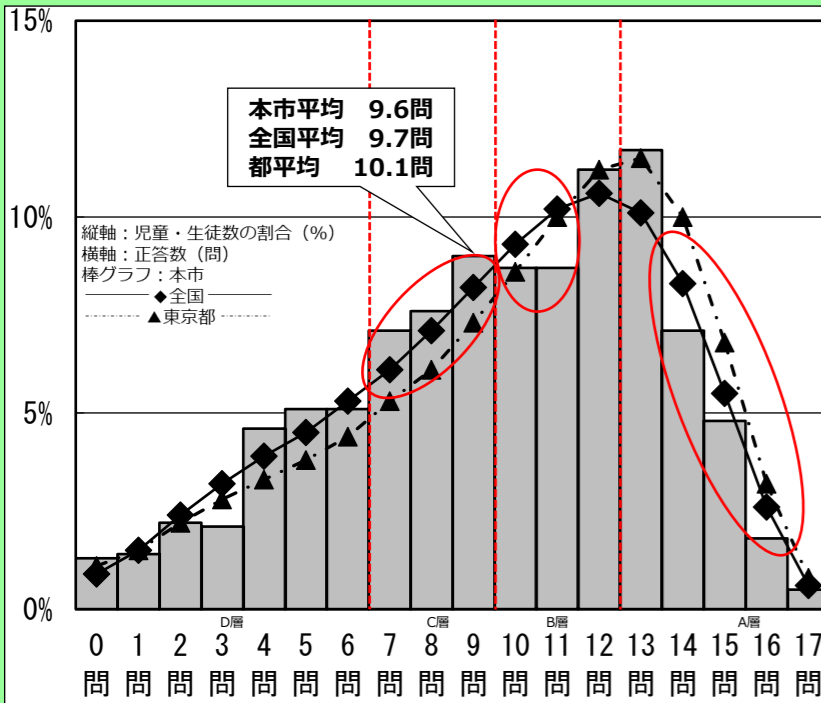
| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の領域 | 評価の観点 | 正答率 (%) | | | 無解答率 (%) | | |
|------|--|-----------|-------|---------|------|------|----------|------|------|
| | | | | 本市 | 全国 | 東京都 | 本市 | 全国 | 東京都 |
| 1(1) | 2022年の全国のブロックリーの出荷量が2002年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ | A及びD | 知・技 | 78.8 | 78.7 | 85.0 | 0.2 | 0.4 | 0.6 |
| 1(2) | 都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く | Dデータの活用 | 思・判・表 | 27.7 | 31.0 | 34.0 | 1.3 | 0.9 | 1.2 |
| 1(3) | 示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ | Dデータの活用 | 知・技 | 71.5 | 71.6 | 76.6 | 4.4 | 3.5 | 3.7 |
| 1(4) | 示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く | A数と計算 | 思・判・表 | 77.3 | 74.5 | 78.9 | 2.2 | 2.6 | 2.7 |
| 2(1) | 示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ | B図形 | 知・技 | 56.5 | 58.3 | 61.4 | 1.3 | 1.2 | 1.5 |
| 2(2) | 方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ | B図形 | 知・技 | 54.0 | 50.2 | 56.7 | 0.7 | 0.7 | 1.0 |
| 2(3) | 角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ | B図形 | 知・技 | 81.3 | 79.3 | 83.3 | 1.0 | 1.0 | 1.3 |
| 2(4) | 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く | B図形 | 思・判・表 | 35.4 | 37.0 | 43.5 | 2.4 | 2.7 | 3.2 |
| 3(1) | 0.4 + 0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く | A数と計算 | 知・技 | 75.5 | 74.1 | 80.8 | 2.3 | 2.8 | 2.9 |
| 3(2) | 3/4 + 2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く | A数と計算 | 思・判・表 | 20.6 | 23.0 | 29.7 | 15.5 | 15.7 | 16.2 |
| 3(3) | 数直線に示された数を分数で書く | A数と計算 | 知・技 | 42.4 | 35.0 | 45.8 | 8.6 | 7.8 | 8.5 |
| 3(4) | 1/2 + 1/3を計算する | A数と計算 | 知・技 | 80.6 | 81.3 | 83.4 | 4.5 | 4.1 | 4.5 |
| 4(1) | 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ | A、C及びD | 思・判・表 | 85.7 | 82.8 | 86.9 | 2.3 | 2.6 | 3.0 |
| 4(2) | 使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く | A、C及びD | 思・判・表 | 48.9 | 48.7 | 55.5 | 3.5 | 3.4 | 3.8 |
| 4(3) | はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む | C測定 | 知・技 | 63.9 | 60.9 | 65.5 | 3.3 | 4.2 | 4.4 |
| 4(4) | 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ | C変化と関係 | 思・判・表 | 44.8 | 40.9 | 52.3 | 3.3 | 4.1 | 4.2 |

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果について I 小学校理科

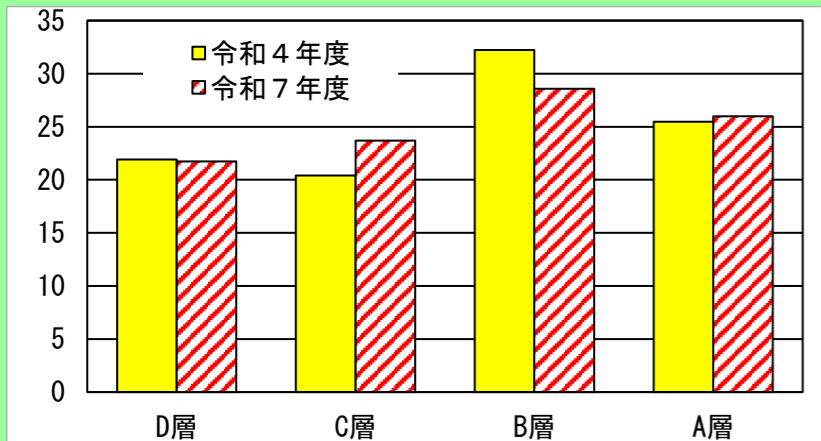
① 平均正答率 (%)

| | 本市 | 全国 | 東京都 |
|-----------|------|------|------|
| 平均正答率 (%) | 56.0 | 57.1 | 60.0 |

② 正答数分布グラフ



③ 四分位の正答数分布 (%)



※ 四分位の正答数分布……正答数の多い順に整理し、25%刻みで4つの層分けを行ったものであり、上位からA層、B層、C層、D層と称したもの

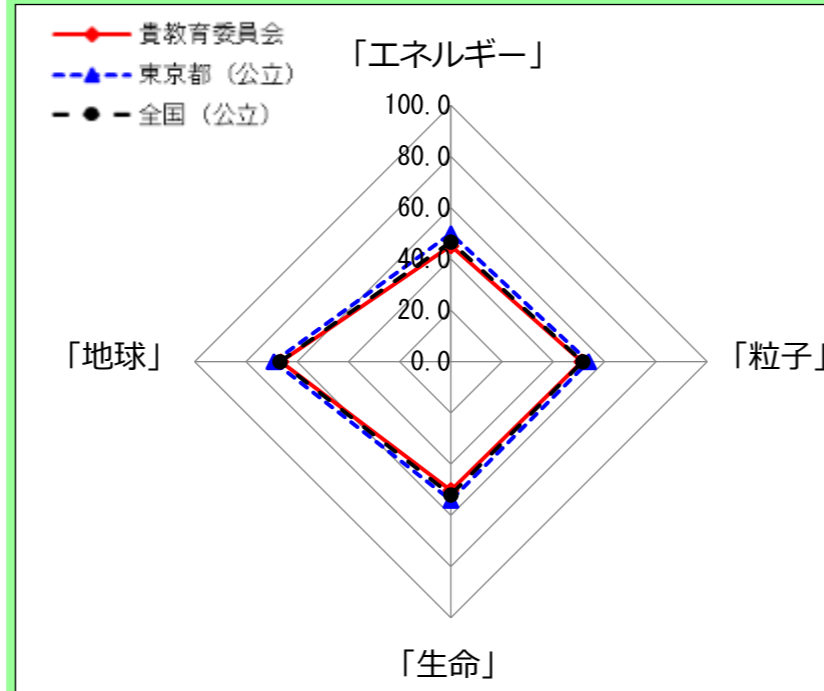
■ 現状・課題

- ① 平均正答率は、56.0%であり、全国より1.1ポイント、東京都より4.0ポイント低い。
- ② 正答数分布グラフは、13問を頂点とした右寄りの山型を描いており、四分位のA層が属する16問、15問、14問、B層が属する11問、10問の児童数の割合が全国より低く、C層の属する9問、8問、7問の児童数の割合が全国より高い。
- ③ 四分位の正答数分布は、令和4年度に比べてA、C層が増加し、B、D層が減少した。
- ④ 評価の観点の平均正答率は、知識・技能は53.8%であり、全国より1.5ポイント、東京都より3.9ポイント低い。思考・判断・表現は58.5%であり、全国より0.2ポイント、東京都より2.7ポイント低い。
- ⑤ 学習指導要領の領域の平均正答率は、「エネルギー」が45.2%、「粒子」が51.1%、「生命」が50.3%、「地球」が66.4%で全国をやや下回り、東京都との差が4.7ポイント以下となった。
- ⑥ 3(4)の見いだした問題について書く問題においては、全国や東京都と同様に正答率が低く、無解答率が高いことから、日々の授業において、児童が事象から問題を見だし自分の言葉で表現する実践が必要であると考えられる。

④ 評価の観点の平均正答率 (%)

| 評価の観点 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|----------|------|------|------|
| 知識・技能 | 53.8 | 55.3 | 57.7 |
| 思考・判断・表現 | 58.5 | 58.7 | 61.2 |

⑤ 学習指導要領の領域の平均正答率 (%)



| 学習指導要領の領域 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|-----------|------|------|------|
| 「エネルギー」 | 45.2 | 46.7 | 49.9 |
| 「粒子」 | 51.1 | 51.4 | 53.7 |
| 「生命」 | 50.3 | 52.0 | 54.1 |
| 「地球」 | 66.4 | 66.7 | 69.1 |

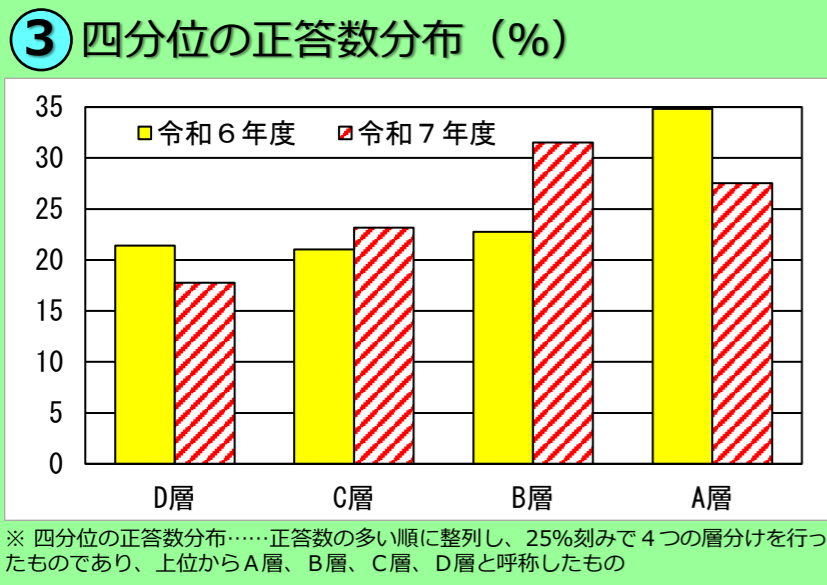
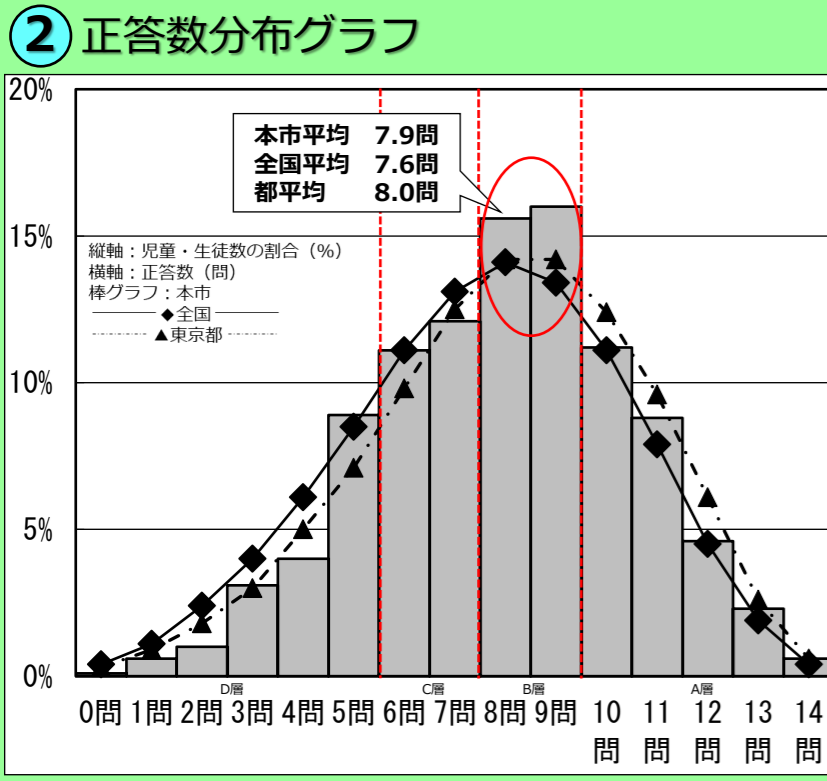
⑥ 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の領域 | 評価の観点 | 正答率 (%) | | | 無解答率 (%) | | |
|--------|--|-----------|-------|---------|------|------|----------|------|------|
| | | | | 本市 | 全国 | 東京都 | 本市 | 全国 | 東京都 |
| 1(1) | 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く | 地球 | 思・判・表 | 81.1 | 79.5 | 82.3 | 2.9 | 2.5 | 3.3 |
| 1(2) | 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く | 地球 | 思・判・表 | 60.5 | 60.5 | 59.8 | 9.8 | 8.5 | 10.1 |
| 1(3) | 【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ | 地球 | 思・判・表 | 78.0 | 77.8 | 80.8 | 1.0 | 0.9 | 1.3 |
| 2(1) | アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ | エネルギー及び粒子 | 知・技 | 9.8 | 10.6 | 12.8 | 0.5 | 0.6 | 0.9 |
| 2(2) | 電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ | エネルギー | 思・判・表 | 41.0 | 42.9 | 46.8 | 0.5 | 0.6 | 0.9 |
| 2(3) | ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く | エネルギー | 知・技 | 79.1 | 78.0 | 80.6 | 3.2 | 2.7 | 3.7 |
| 2(4) | 乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ | エネルギー | 知・技 | 51.0 | 55.1 | 59.3 | 0.9 | 0.8 | 1.2 |
| 3(1) | ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く | 生命 | 知・技 | 64.1 | 70.7 | 69.7 | 2.6 | 1.5 | 2.4 |
| 3(2) | ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ | 生命 | 知・技 | 47.7 | 45.6 | 47.3 | 1.1 | 0.8 | 1.3 |
| 3(3) | ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ | 生命 | 思・判・表 | 59.8 | 62.0 | 66.0 | 2.0 | 1.7 | 2.4 |
| 3(4) | レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く | 生命 | 思・判・表 | 29.7 | 29.9 | 33.4 | 13.3 | 11.4 | 14.0 |
| 4(1) | 水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く | 粒子 | 思・判・表 | 51.7 | 50.6 | 49.9 | 6.4 | 6.1 | 7.8 |
| 4(2)イウ | 水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ | 粒子及び地球 | 知・技 | 64.9 | 64.2 | 64.8 | 1.2 | 1.3 | 1.9 |
| 4(2)エオ | 水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ | 粒子及び地球 | 知・技 | 56.1 | 57.5 | 62.8 | 1.4 | 1.5 | 2.2 |
| 4(3)カ | 海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ | 粒子 | 思・判・表 | 60.2 | 59.8 | 63.7 | 2.7 | 2.3 | 3.5 |
| 4(3)キ | 水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ | 地球 | 知・技 | 58.0 | 60.9 | 63.9 | 2.7 | 2.4 | 3.6 |
| 4(3)ク | 海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ | 粒子 | 思・判・表 | 64.1 | 65.6 | 68.0 | 3.2 | 2.5 | 3.7 |

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果について I 中学校国語

① 平均正答率 (%)

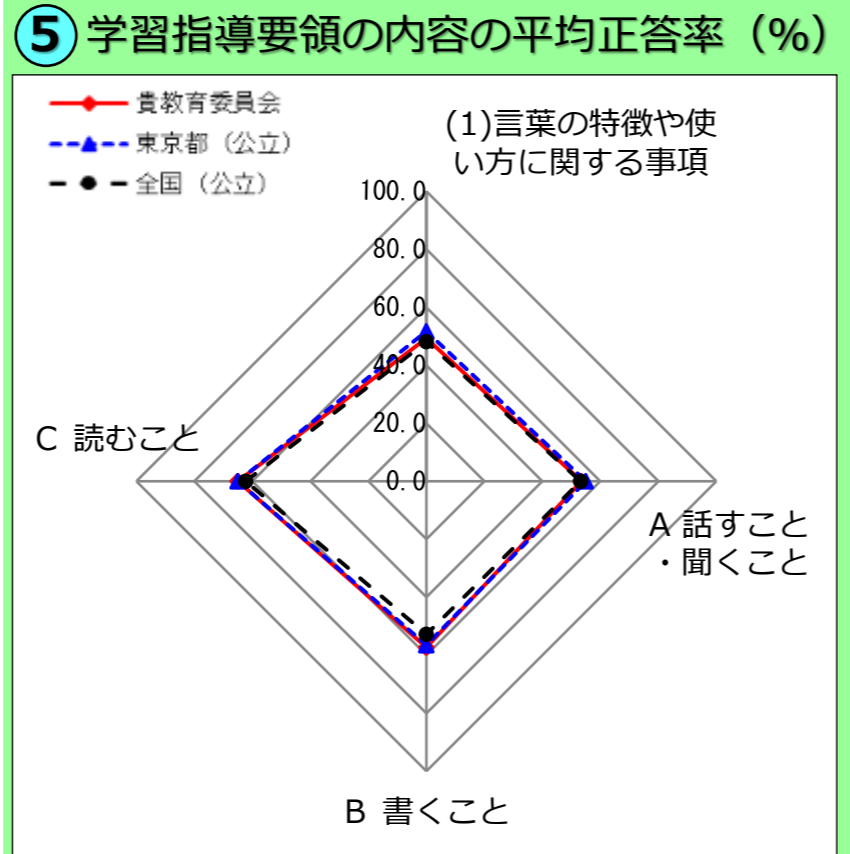
| | 本市 | 全国 | 東京都 |
|-----------|------|------|------|
| 平均正答率 (%) | 57.0 | 54.3 | 57.0 |



- ### ■ 現状・課題
- ① 平均正答率は、57.0%であり、全国より2.7ポイント高く、東京都と同等である。
 - ② 正答数分布グラフは、9問を頂点とした右寄りの山型を描いており、四分位のB層が属する9問、8問の生徒数の割合が全国や東京都より高い。
 - ③ 四分位の正答数分布は、令和6年度に比べてA、D層が減少し、B、C層が増加した。
 - ④ 評価の観点の平均正答率は、知識・技能は49.3%であり、全国より1.2ポイント高く、東京都より2.4ポイント低い。思考・判断・表現は58.0%であり、全国より2.7ポイント高く、東京都より0.1ポイント低い。
 - ⑤ 学習指導要領の内容の平均正答率は、いずれも全国を上回り、思考力・判断力・表現力等の「B 書くこと」の57.3%、「C 読むこと」の65.0%については東京都を上回るまたは同等となった。
 - ⑥ 「A 話すこと・聞くこと」の問題については、全国や東京都と比べて他の問題よりも正答率が低い。日々の授業において、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する実践が必要であると考える。

④ 評価の観点の平均正答率 (%)

| 評価の観点 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|----------|------|------|------|
| 知識・技能 | 49.3 | 48.1 | 51.7 |
| 思考・判断・表現 | 58.0 | 55.3 | 58.1 |



| 学習指導要領の内容 | | 本市 | 全国 | 東京都 |
|-----------|---------------------|------|------|------|
| 知・技 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 49.3 | 48.1 | 51.7 |
| 思・判・表 | A 話すこと・聞くこと | 53.5 | 53.2 | 55.0 |
| | B 書くこと | 57.3 | 52.8 | 56.5 |
| | C 読むこと | 65.0 | 62.3 | 65.0 |

⑥ 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の内容 | 正答率 (%) | | | 無解答率 (%) | | |
|------|--|-----------|---------|------|------|----------|------|------|
| | | | 本市 | 全国 | 東京都 | 本市 | 全国 | 東京都 |
| 1一 | 変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん) | 知・技 | 36.2 | 35.2 | 40.6 | 0.3 | 0.2 | 0.2 |
| 1二 | ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する | 思・判・表 | 87.5 | 82.5 | 86.4 | 0.1 | 0.2 | 0.2 |
| 1三 | ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する | 思・判・表 | 66.8 | 63.3 | 67.4 | 0.3 | 0.5 | 0.5 |
| 1四 | ちらしの読み手に向けて、今年美術展の工夫について伝える文章を書く | 思・判・表 | 35.4 | 31.0 | 34.0 | 0.9 | 1.6 | 1.4 |
| 2一 | スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する | 思・判・表 | 36.4 | 38.1 | 38.8 | 0.4 | 0.3 | 0.4 |
| 2二 | 聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する | 思・判・表 | 82.1 | 77.9 | 80.8 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |
| 2三 | 「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する | 思・判・表 | 73.7 | 73.4 | 76.9 | 0.5 | 0.6 | 0.7 |
| 2四 | 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く | 思・判・表 | 21.9 | 23.2 | 23.7 | 2.2 | 4.0 | 3.4 |
| 3一 | 物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する | 思・判・表 | 82.9 | 80.0 | 83.3 | 0.6 | 0.5 | 0.6 |
| 3二 | 「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く | 思・判・表 | 91.8 | 89.9 | 90.7 | 2.7 | 4.0 | 3.6 |
| 3三 | 「しきりと」の意味として適切なものを選択する | 知・技 | 62.4 | 61.0 | 62.8 | 0.9 | 0.8 | 0.8 |
| 3四 | 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く | 思・判・表 | 20.5 | 17.1 | 20.9 | 19.9 | 28.1 | 23.5 |
| 4一 | 手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する | 思・判・表 | 63.2 | 57.3 | 60.4 | 29.1 | 33.5 | 31.4 |
| 4二 | 手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く | 思・判・表 | 33.8 | 30.1 | 34.2 | 14.3 | 19.1 | 15.9 |

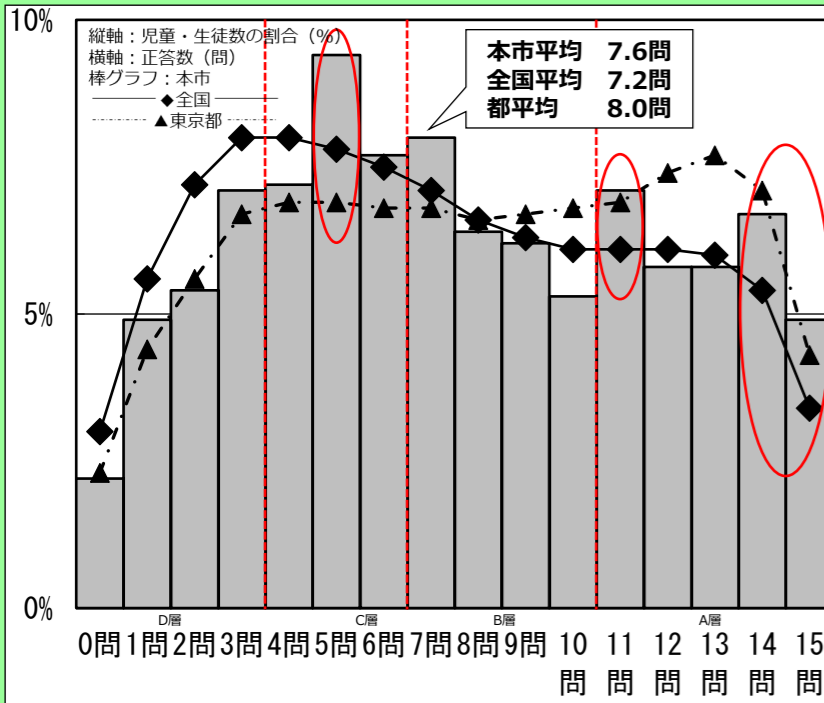
令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果について I

中学校数学

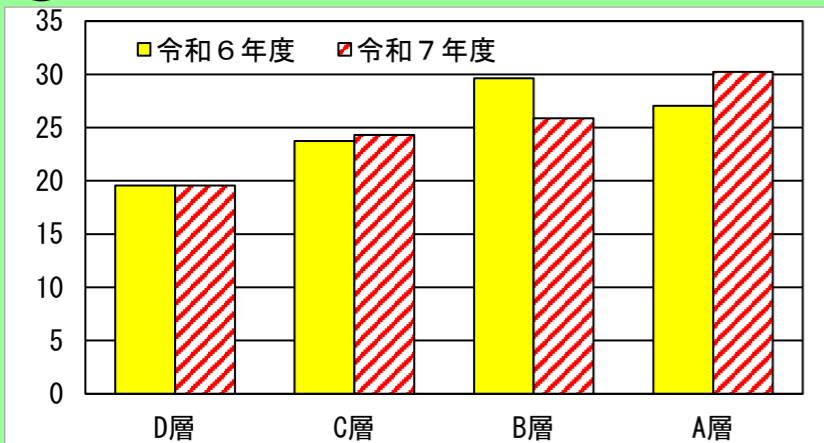
① 平均正答率 (%)

| 本市 | 全国 | 東京都 |
|------|------|------|
| 51.0 | 48.3 | 53.0 |

② 正答数分布グラフ



③ 四分位の正答数分布 (%)



※ 四分位の正答数分布……正答数の多い順に整理し、25%刻みで4つの層分けを行ったものであり、上位からA層、B層、C層、D層と呼称したものの

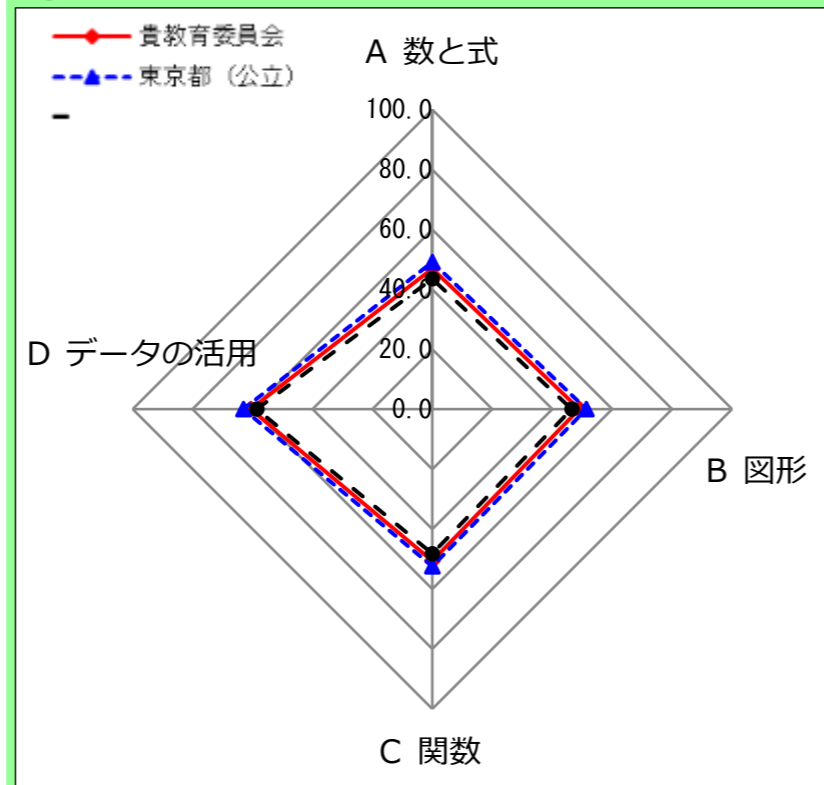
■ 現状・課題

- ① 平均正答率は、51.0%であり、全国より2.7ポイント高く、東京都より2.0ポイント低い。
- ② 正答数分布グラフは、5問を頂点とした高原型を描いており、四分位のA層が属する14問、11問、C層が属する5問の生徒数の割合が全国や東京都より高い。
- ③ 四分位の正答数分布は、令和6年度に比べてA、C層が増加し、D層が同等のまま、B層が減少した。
- ④ 評価の観点の平均正答率は、知識・技能は57.0%であり、全国より2.6ポイント高く、東京都より1.3ポイント低い。思考・判断・表現は41.9%であり、全国より2.8ポイント高く、東京都より3.5ポイント低い。
- ⑤ 学習指導要領の領域の平均正答率は、いずれも全国を上回り、東京都との差が2.5ポイント以下となった。
- ⑥ 問題別集計結果は、「3」の問題を除き、いずれも全国を上回った。6(2)、6(3)、8(2)、9(3)の説明する、証明する問題においては、正答率が低く、無解答率が高い傾向にあることから、日々の授業において、判断の理由などを数学的な表現を用いて説明する実践が必要であると考えられる。

④ 評価の観点の平均正答率 (%)

| 評価の観点 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|----------|------|------|------|
| 知識・技能 | 57.0 | 54.4 | 58.3 |
| 思考・判断・表現 | 41.9 | 39.1 | 45.4 |

⑤ 学習指導要領の領域の平均正答率 (%)



| 学習指導要領の領域 | 本市 | 全国 | 東京都 |
|-----------|------|------|------|
| A 数と式 | 46.9 | 43.5 | 49.1 |
| B 図形 | 49.0 | 46.5 | 51.4 |
| C 関数 | 50.6 | 48.2 | 52.4 |
| D データの活用 | 60.6 | 58.6 | 63.1 |

⑥ 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の領域 | 評価の観点 | 正答率 (%) | | | 無解答率 (%) | | |
|------|---|-----------|-------|---------|------|------|----------|------|------|
| | | | | 本市 | 全国 | 東京都 | 本市 | 全国 | 東京都 |
| 1 | 1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ | A 数と式 | 知・技 | 41.1 | 31.8 | 35.8 | 0.5 | 0.7 | 0.7 |
| 2 | 果汁 40% の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す | A 数と式 | 知・技 | 52.1 | 51.9 | 56.9 | 8.1 | 7.3 | 6.7 |
| 3 | △ABC において、∠A の大きさが 50° のときの頂点 A における外角の大きさを求める | B 図形 | 知・技 | 56.1 | 58.1 | 58.9 | 1.8 | 2.0 | 1.8 |
| 4 | 一次関数 $y = 6x + 5$ について、x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める | C 関数 | 知・技 | 35.3 | 34.7 | 38.1 | 7.5 | 8.0 | 7.1 |
| 5 | ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m 以上 25m 未満の階級の相対度数を求める | D データの活用 | 知・技 | 43.5 | 42.5 | 47.6 | 9.5 | 9.4 | 8.5 |
| 6(1) | 連続する二つの 3 の倍数の和が 9 の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために予想が成り立たない例をあげ、その和を求める | A 数と式 | 知・技 | 65.4 | 62.8 | 67.5 | 4.2 | 4.6 | 3.8 |
| 6(2) | $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する | A 数と式 | 思・判・表 | 28.4 | 25.7 | 32.7 | 22.0 | 24.9 | 21.3 |
| 6(3) | 連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する | A 数と式 | 思・判・表 | 47.6 | 45.2 | 52.5 | 16.9 | 20.2 | 15.3 |
| 7(1) | A の手元のカードが 3 枚とも「ゲー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの 1 回目を行うとき、1 回目に A が勝つ確率を書く | D データの活用 | 知・技 | 80.3 | 77.4 | 81.1 | 2.2 | 3.2 | 2.8 |
| 7(2) | A の手元のカードが「ゲー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の 4 枚、B の手元のカードが「ゲー」、「チョキ」の 2 枚のとき、A と B の勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する | D データの活用 | 思・判・表 | 58.0 | 55.9 | 60.4 | 2.1 | 2.2 | 2.0 |
| 8(1) | A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取れば C 駅と D 駅間の走行距離が分かるかを選ぶ | C 関数 | 知・技 | 75.8 | 71.9 | 75.2 | 1.8 | 2.3 | 2.4 |
| 8(2) | A 駅から 60.0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する | C 関数 | 思・判・表 | 40.8 | 38.0 | 43.9 | 29.7 | 35.0 | 29.6 |
| 9(1) | 四角形 AECF が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ | B 図形 | 知・技 | 63.3 | 58.5 | 63.6 | 1.3 | 1.1 | 1.3 |
| 9(2) | 平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する | B 図形 | 思・判・表 | 39.3 | 36.3 | 44.0 | 8.8 | 7.2 | 6.9 |
| 9(3) | 平行四辺形 ABCD の辺 BC、DA を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取り辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE の交点を H としたとき、四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明する | B 図形 | 思・判・表 | 37.5 | 33.2 | 39.1 | 29.0 | 31.5 | 27.9 |

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果について I

中学校理科

■ I R Tを用いた結果について

- 生徒一人当たり、公開問題10問と非公開問題16問を出題
 - ・ 公開問題は、結果を指導改善に生かすことを目的に、全日程共通6問+日程別4問で構成
 - ・ 非公開問題は、問題の一部を次回以降も出題し、経年比較することを目的に、幅広い内容・難易度等で構成
 - 実施日より異なる問題が出題されたことに伴い、調査結果もI R Tで公表
 - ・ I R Tとは、英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されるテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できる。
- （例）的当てを4回行った場合のイメージ
 【Aさん】4回とも的ギリギリに命中 【Bさん】1回は的を外れたが3回は中心に命中
- ・ 素点方式（正答数・正答率）：的に何回命中したか
 - ・ I R T方式：的の中心に安定的に命中したか
- 【Aさん】命中率100%だが、精度（難易度）は低い 【Bさん】命中率75%だが、精度（難易度）は高い
- ➡ I R Tは難易度が高い問題に正答していると高めに、難易度が低い問題に誤答していると低めに算出

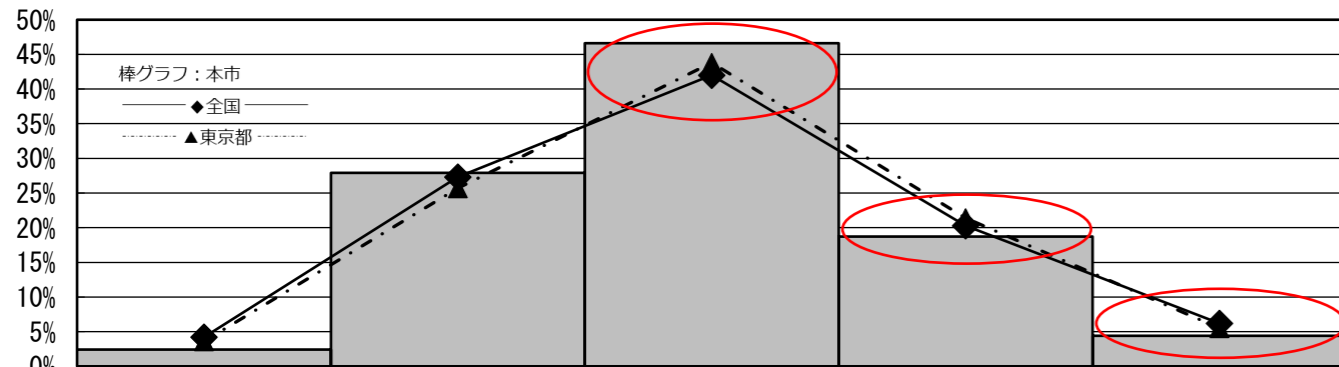
① I R Tスコア

- I R Tに基づき、正誤状況から学力を推定して500を基準に得点で表したもの

| | 本市 | 全国 | 東京都 |
|----------|-----|-----|-----|
| I R Tスコア | 498 | 503 | 506 |

② I R Tバンド

- I R Tスコアを5段階に区切ったもの。3のバンドを基準とし、5のバンドが最も高い。教科全体について示され、領域や評価の観点別には示されない。



■ 現状・課題

- ① I R Tスコアは、498ポイントであり、全国より5ポイント、東京都より8ポイント低い。
- ② I R Tバンドは、3のバンドを頂点とした山型を描いており、3のバンドが全国より4.6ポイント、東京都より2.8ポイント高く、5及び4のバンドが全国及び東京都よりやや低い。
- ③ 問題別集計結果のうち、(1)は生命に係る領域であり、全国より1.2ポイント、東京都より2.6ポイント低い。実際の顕微鏡観察に近い動画から解答を選択する問題であったことから、そのような観察・実験の充実が必要であるとする。
- ④ (2)はエネルギーに係る領域であり、全国より5.1ポイント、東京都より4.9ポイント高い。仮説が正しい場合の結果を予想する問題であったことから、引き続き、理科の学習過程を重視した指導実践が必要であるとする。
- ⑤ (3)は粒子に係る領域であり、全国と同ポイント、東京都より2.5ポイント低い。動画で見た化学変化を原子や分子のモデルを動かして解答する問題であったことから、生徒が理科の見方を働かせ、目に見えない事象をモデルで表すなど、質的・実体的な視点で捉える指導実践が必要であるとする。
- ⑥ (4)は地球に係る領域であり、全国より1.1ポイント高く、東京都より0.8ポイント低い。「振り返り」の記述から、「予想」していたことを選択する問題であったことから、考察場面において、予想や方法を振り返り、再検討するなど、複数の側面から考える指導実践が必要であるとする。

③ 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の領域 | 評価の観点 | 正答率 (%) | | | 無解答率 (%) | | | 問題の難易度 |
|-----------|--|-----------|-------|---------|------|------|----------|-----|-----|--------|
| | | | | 本市 | 全国 | 東京都 | 本市 | 全国 | 東京都 | |
| 1 (1) | 電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する | エネルギー | 知・技 | 51.3 | 51.9 | 52.0 | 0.0 | 0.2 | 0.2 | 5 |
| 1 (2) | 「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する | 粒子 | 思・判・表 | 46.2 | 46.2 | 45.9 | 5.8 | 7.8 | 7.8 | 5 |
| 1 (3) | 地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する | 地球 | 思・判・表 | 33.6 | 36.2 | 36.9 | 0.1 | 0.7 | 0.7 | 5 |
| 1 (4) | 生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する | 生命 | 知・技 | 28.5 | 29.7 | 31.1 | 0.1 | 0.2 | 0.2 | 5 |
| 1 (5) | 塩素の元素記号を記述する | 粒子 | 知・技 | 36.2 | 44.9 | 47.3 | 9.5 | 8.4 | 8.4 | 4 |
| 1 (6) | 水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する | 粒子 | 思・判・表 | 81.0 | 79.4 | 80.3 | 7.4 | 9.4 | 9.4 | 3 |
| 2 (1) | 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する | エネルギー | 思・判・表 | 14.0 | 14.0 | 14.9 | 0.0 | 1.8 | 1.8 | 5 |
| 2 (2) | 「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する | エネルギー | 知・技 | 95.2 | 94.6 | 95.6 | 0.0 | 0.2 | 0.2 | 2 |
| 3 (1) | 設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する | エネルギー | 思・判・表 | 40.0 | 34.9 | 35.1 | 0.0 | 0.3 | 0.3 | 5 |
| 3 (2) | 抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する | エネルギー | 知・技 | 86.9 | 85.2 | 86.8 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | 2 |
| 4 (1) (1) | プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる | 粒子 | 思・判・表 | 45.3 | 50.4 | 51.5 | 0.0 | 0.2 | 0.2 | 4 |
| 4 (2) | 「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する | 粒子 | 知・技 | 93.0 | 92.8 | 95.3 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | 2 |
| 5 (1) | 加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する | 粒子 | 知・技 | 96.7 | 93.0 | 93.5 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | 1 |
| 5 (2) | 実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す | 粒子 | 思・判・表 | 35.6 | 35.6 | 38.1 | 5.2 | 4.9 | 4.9 | 4 |
| 6 (1) | 牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する | 生命 | 知・技 | 66.9 | 65.9 | 67.1 | 0.8 | 0.2 | 0.2 | 4 |
| 6 (2) | 牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する | 生命 | 思・判・表 | 35.4 | 41.9 | 39.5 | 0.0 | 0.2 | 0.2 | 4 |
| 7 (1) | 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する | 生命 | 思・判・表 | 29.1 | 34.8 | 36.0 | 0.0 | 0.3 | 0.3 | 5 |
| 7 (2) | 消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する | 粒子生命 | 知・技 | 44.2 | 51.6 | 48.8 | 0.6 | 0.2 | 0.2 | 5 |
| 8 (1) | 大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する | 地球 | 思・判・表 | 47.0 | 42.2 | 43.2 | 1.5 | 2.8 | 2.8 | 4 |
| 8 (2) | Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようにになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す | 地球 | 思・判・表 | 14.8 | 18.1 | 19.0 | 0.0 | 1.2 | 1.2 | 5 |
| 9 (1) | 【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する | 地球 | 思・判・表 | 32.9 | 31.8 | 33.7 | 0.0 | 0.4 | 0.4 | 5 |
| 9 (2) | クリーンルームのほか気圧を利用している身近な事象を選択する | 地球 | 知・技 | 72.0 | 58.1 | 62.4 | 0.0 | 0.3 | 0.3 | 4 |